

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 5 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コースン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

創世記 5 章。

これはアダムの歴史の記録である。神は人を創造されたとき、神に似せて彼を造られ、(創世記 5:1)

男と女とに彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、その名を人 (アダム) と呼ばれた。(創世記 5:2)

これで、創世記の最初のセクション—創造に関する全ての出来事と物語、全体的には全ての被造物、詳しく言えば人の創造についての部分—が終わりになります。

5 章では系図について—アダムから始まって、神の民セツとその子孫に連なっていく系図を学びます。次のセクションでノアと大洪水、その後の『ノア契約』へと続きますが、これについては、また改めてお話しします。

それで、5 章は、初めの 4 章と後の章のノアと大洪水の話を繋ぐ“橋渡し”と言えるでしょう。

今夜はこのフレーズ、“始まり”、“最初”に注目して下さい。

ここで語られているのは、前回学んだ神に反する民の系図ではなく、アダムに始まり息子セツの子孫へと続く神の民の家系です。

私は個人的にも以前ここを学びましたが、びっくりしました。

私たちの文化がどうしてこんなに乱れてしまっているのか、どうして社会がこんな事になってしまったのか。それは、カインの家族を見るとよく分かります。こういった言葉は使いたくないのですが、彼らは完全に機能不全の家系で…言いたいことは分かりますよね。

カインに始まって、あらゆる罪を犯した家系。今も、その影響を強く受けているのです。

それとは反対の、神の民であるセツの家系。

ここで私がとても感動した聖句は、**神に似せて彼を造られ、男と女とに彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、その名を人（アダム）と呼ばれた。（創世記 5:1 - 2）**

ここで主は、さかのぼって“あの日”を振り返っています。それは、神がアダムを造り、深く眠らせ、その脇腹から女を造った日。そして、エデンの園で彼らを結び合わせた日。それが最初の結婚式でした。神ご自身が最初の結婚式を取り仕切り、神ご自身が司式をし、そして、神ご自身がこの魅惑的で啓示に満ちた素晴らしい儀式に於いて、「アダムとエバは今、一つになった。夫婦になった。」と結婚の宣言をしました。（\*創世記 2 章パート 4 参照）

私がなぜこういう事を話すのかと言うと、時に人々は「結婚式に何の意味があるんだ？」と言うからです。

こんなこと言う人、いるでしょ？ ほとんどの人が聞いたこと、ありますよね。

「聖書のどこに、結婚式について書いてあるんだ？」「正式な結婚式なんか、いらない。」「相手を決めて一緒に暮らし、互いに忠誠を誓うなら、それが神の目には結婚したということ。式とか結婚届とか不要だ！」「あんな胡散臭い牧師役も必要ない。」「森にでも行って手を取り合うか、セコイアの木を囲んで愛を宣言し、シェークスピアを引用して聖書の一節を読んで祈る。それで結婚成立！」「結婚式が何の役に立つんだ？」

「式、不要！」「相手を選んで互いに誓い合い、一つになれば、もう結婚したことなのさ！」

今、この地域でも、クリスチャンと自負する人たちが、聖書的にも、みことばに照らし合わせても結婚式は必要ないと本当に信じています。

彼らのそういう考えは一般的になってきていて、私たちが伝統的に行う結婚式は聖書とは関係ない、必要ないと言っているのです。

しかし、私はその考え方には、心底、強く反対します。なぜなら、あなたがセコイアの木を囲んで愛しい彼女に愛を誓い、詩を詠んで、それから彼女も同じことをして、「私たちは神の御前で結ばれた。他人を伴って式をする必要なんかない。」と言うことに対して、それは、あまりにも簡単すぎると分かったからです。あまりにも、簡単すぎる。

1 年、2 年、3 年、4 年経った頃、「私たちが神の御前で結ばれた、なんて思えない。」

そして出て行き、別れてしまう。このように簡単な方を選ぶ人たち。

その時の感情に任せて、星の瞬く中、緑の芝に腰を下ろしてとか、何であれ、私は、それは聖書からかけ離れていることだと思います。

ここで語られた初めての結婚式、神がこれを執り行ったと書かれているのですから。

神が、彼らは結婚して夫婦であると宣言したのです。

**神は彼らを祝福して、その名を人（アダム）と呼ばれた。（創世記 5:2）**

ここで大事なのは、神が、宣言の中で彼らを『アダム』と呼んだこと。

5 章に登場する最初の結婚式に目を留めるだけでなく、ここでよく考えて欲しいことは、これを神が執り行い、彼らの名はアダムだと公けに宣言したことです。

ところで、イエスは最初の奇跡を結婚式の場で行いました。

彼はその地において結婚式に行き、初めての奇跡をその場で行うことを選んでいます。

イエスは、明らかに結婚の式を認め、それが正式な儀式だと承認していました。

私が言っているのは、タキシードや燕尾服、シルクハットなど、そんなことではありませんよ。家族や友人が誓約の証人となり、正式に公認して執り行われた式のことです。

イエスはその結婚式において、途中でワインがなくなってしまったので、水をワインに変えました。この話は、ほとんどの人が知っているでしょう。

ワインは喜びの象徴なので、それがなくなるというのは都合が悪かったんですね。

そこで、イエスはカナの結婚式で、最初の栄光の奇跡を行いました。

ここ 5 章で、御父が最初の結婚式を執り行って、彼らの名はアダムだと宣言し、新約聖書では、御子イエスが、彼の最初の奇跡を結婚式で行った。

だから誰が何と言おうと、結婚の儀式は、男と女が神の代理人の前で、神が存在する中に立つこと。

二人だけで星の下で感情によってではなく、社会的に正式に合法的に行うこと。

これが、正真正銘の正しい在り方です。

ベストの形で結婚をしたいと願う全ての人にお伝えします。それが重要なことだと。

さて、神はふたりを見て、名前は『アダム』だ、とはっきり明確に宣言しました。

ここで気付きましたか？

“アダム&エバ - アダム”ではなく、“アダム&エバ - ヒラリー - アダム”でもない。

そこに旧姓は存在しません。手放したのです。

古いアイデンティティーを手放して、新しいひとつの一体となる。

これには本当に驚きました。“Mr&Mrs アダム&エバ”ではなく、“アダム&エバ - アダム”でもなく、“アダムス・ファミリー”でもない。彼らの名は『アダム』

これは、結婚の神秘と奇跡と驚きとを表しています。

確かに結婚の儀式は主の目に正しいことであり、真実で聖書的な結婚生活と調和します。

証明され、祝福されます。確かにその通り。

しかし、それだけではない。それ以上の意味があるのです。

それは一体化。一致。そうです！

神は男と女に言いました。「ふたりは一つの体になる」(創世記 2:24)

他の全てから離れ、互いに結び合う。

これは、性的関係による一体化を指していて、結婚式に於いて法的にも霊的にも一体になりますが、それだけではなく、その後、男と女が性的に結び合うという神秘と美によって、一体化が起こるのです。

私はある意味、聖歌隊を指導するようなこと(言うまでもない事)を言おうとしていて、皆さんは既にその事を知っている、ということも分かっています。それでも、今夜伝えたいのは、言わば、聖歌隊のリハーサルとして、もっと声を大にして歌ってほしいのです。

私たちが住んでいるコミュニティの中で。私たちが関わる文化の中で。

なぜなら、人々は分かっているから。

人々は、男と女が肉体関係を持つということは、二つの体、ふたりのそれまでの経験が、肉体的に官能的に

ロマンチックに、何であれ、結び合うことだと信じています。

しかし、それは、もっともっと、更にもっと多くの意味を持っているのです。

皆さん、子供たちは大学のキャンパスで、社会の中で、ものすごく混乱していますよ。

子供たちが教えられているのは、「セックスは本来の個性が表現される経験だ。但し、気をつけてやりなさい。望まない妊娠や性病にならないように。」

聖書はそんなことは言っておりません。聖書が言う性的関係、一体化とは、望まない妊娠や性病を避けて行うことではありません。

聖書は「性的に結ばれるということは、ふたりの人アダムとエバが、結婚の神秘、親密さの中で一つになること。二つの魂、二つの霊が一つになること。」と述べています。

それは、二つの体が単に感情的に一体となるのではなく、結婚生活に於いて、あなたの中の一番深い部分、あなたの本質、永遠の部分の互いに結び合っただけで一つになることです。

神はこの状況を見て言いました。「彼らの名前は『アダム』」 一人称です。

結婚の親密さの中でふたりが結び合う時に、神は、神秘的で驚くべき奇跡である「彼らの名前はアダムで、本質に於いて一つなのだ」と宣言します。

この関係が聖なる結婚の外で起こった時、つまり聖書が『姦淫』と呼ぶ行為に関わった時には、私たちが完全に理解していないことが起こります。

すなわち、結婚の中で起こるのと同じくらいにパワフルで、奇跡的なことが悪い方向に働く。二人の内の片方が結婚外でそういう事に関わると、同じだけの力が、まさに破壊的な方向に働くのです。だから以前お話ししたように、箴言にはこう書かれています。

**女と姦通する者は思慮に欠けている。これを行う者は自分自身を滅ぼす。(箴言 6:32)**

「病気になるかも」とか「妊娠するかも」とは書いていません。そういう問題については一切触れられていない。それが事実であっても。

もし、あなたが姦淫を行えば、婚姻関係の中のふたりに、その美と秘められた力によって一致と一体化がもたらされると同じように、婚姻外の二人には破壊がもたらされ、蝕まれていくのです。

これはまさしく真理なので、主イエスも、マタイ 19 章で離婚について質問された時、“ふたりは神によってエデンの園で結び合わされて一つになり、神が「彼らの名はアダム」と宣言した”というこの場面から話しています。

興味深いことに、議論の中でイエスはこの箇所を用いました。

**パリサイ人たちがみもとにやって来て、イエスを試みて、こう言った。「何か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか。」(マタイ 19:3)**

イエスの時代には二つの学派があり、それぞれを巨頭のラビ、ユダヤ教のスーパースターが率いていて、離婚に関して議論があったのです。

ヒレルは、非常に学識のある優秀なラビでリベラル。(自由・革新主義者)

彼が弟子たちに教えていた離婚は、“モーセの律法によると、妻の汚れを見つけた場合は離婚が許される”

ヒレルたちは“汚れ”について、とても飛躍して捉えていました。例えば、“もし、あなたが妻よりも清い女を道で見かけたなら、比較によって妻は汚れた女になる。”

これは本当にラビの教え(※訂正：動画の中ではレビ記となっていますが、レビ記ではありません。お詫びして訂正します※)にあるのですが、妻が大量の香辛料を使って食事を作り、そう、あなたの卵に塩か胡椒か何かをかけ過ぎた事で、あなたが感情のコントロールを失って怒りを爆発させ冒涇したなら、それは、妻があなたに罪を犯させたことになり、その教えによって、結果、妻は汚れた者になるのです。妻が適切に料理しなかったからであり、それは離婚の理由になる。ラビの教えですよ。妻がきちんと料理できなくて夫の怒りを引き起こしたなら、教えに従って彼女は去らなければなりません。

イエスの時代には、ヒレル派ラビたちがそう指導していたので離婚が横行していました。

あなたがすることは、妻を見て「おまえを離縁する。」「おまえを離縁する。」「おまえを離縁する。」と 3 回言うだけ。彼らの教えでは、それで離婚したことになったのです。

他方のシャマイは保守派で、彼の弟子たちが教えられ、広めていたのは、“いかなる理由であれ、離婚は認められない。”

ということで、キリストが教え始めた時のユダヤ人社会には、離婚について猛烈な意見の対立がありました。

そこで彼らは、イエスを離婚の論争に巻き込もうとして、彼の元に来て試しました。

イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、『それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。」

(マタイ 19:4-6)

彼らは、もはやふたりではない。互いに結び合っ一つになったのだから。

今、ふたりは一体となりました。

「神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」(マタイ 19:6)

つづく

というのは、私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

その人たちの最後は滅びです。彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。(ピリピ 3:18-19 新改訳 2017)